

バイオディーゼル燃料等の 適合性調査報告会を開催

内発協では、6月24日、メルパーク東京にて、自家発電設備に係る新技術調査研究専門委員会の委員及び実証試験委託先であるヤンマー株式会社の技術者らを講師に迎え、「バイオディーゼル燃料等の自家発電設備への適合性調査報告会」を実施した。公益目的事業として平成24年度から平成26年度までの3ヶ年で実施した調査結果の報告会である。なお、内発協では、調査結果を取りまとめた刊行物「自家発電設備へのバイオ燃料利用に関する調査報告書」を発売した。（関連記事18～20面に）

報告会には、自家発電製造者、ゼネコン関係者、バイオ燃料関係者及び行政関係者など約100名が参加した。報告会では、まず、内発協 森信昭会長より開会挨拶が行われた。



報告会の会場風景

次に、①調査の目的・概要②海外における各種バイオ燃料に関する実態調査結果③国内における各種バイオ燃料に関する実態調査結果④バイオディーゼル燃料による自家発電設備の実証運転試験結果⑤自家発電設備にBDF（バイオディーゼル燃料）を使用する場合の課題と提言及び結びと、5つの構成で報告を行った。

海外における各種バイオ燃料に関する実態調査結果報告では、主に液体バイオ燃料の東南アジア及び欧州における自家発電設備への利用実態について報告が行われた。インドネシアにおけるバイオ燃料等

のエネルギー事情から、イタリアにおけるSVO（植物油）の設備導入事例、またドイツにおける気体バイオ燃料の利用状況まで幅広く報告が行われた。

国内における各種バイオ燃料に関する実態調査の結果報告では、主に気体バイオ燃料の自家発電設備への利用実態について報告が行われた。国内ではバイオ燃料として気体燃料が主であることから、気体燃料のさまざまな事例として、家畜糞尿、食品残渣及び下水汚泥の利用による気体バイオ燃料利用事例やバイオ燃料利用実態アンケート調査結果について報告が行われた。

バイオディーゼル燃料による自家発電設備の実証運転試験結果報告では、実際にバイオディーゼル燃料100%（B100）を用いた4,000時間の実証運転試験の分解調査結果等が報告された。また、自家発電設備にBDFを使用する場合の課題と提言の報告で、実証運転試験結果等によるB100などの高濃度バイオディーゼル燃料を自家発電設備に利用する場合の課題と提言について報告が行われた。

最後に、質疑応答が行われ、盛況なうちに終了となった。質疑応答では、海外のバイオ燃料の実態、バイオディーゼル燃料による潤滑油の燃料希釈についてなど、数多くの質問があった。なかでも、海外での利用状況に関する質問が多く、参加者の多くが海外におけるバイオ燃料利用についても興味のあることがうかがえた。



質疑応答